特 集

「各種病態における栄養管理・治療の最近の展開」

序文
各種病態における栄養管理の最近の進歩

石 原 寿 光

日本大学医学部内科学系糖尿病代謝内科

Recent Progresses in Nutritional Management in Various Pathophysiological Conditions

Hisamitsu ISHIHARA

Division of Diabetes and Metabolic Diseases, Department of Internal Medicine, Nihon University School of Medicine

栄養とは、生命を維持するために養分を摂る営みを指し、養分の構成要素が栄養素である。生命の維持を脅かす病態に陥った個体を回復させるためには、個々の病気の原因を治療していくこととともに、個体の栄養状態を病態回復に適切な状態にすることが重要である。また、健康状態においても、栄養状態を適正に保つことが、疾患の発症予防に不可欠である。

栄養管理の重要性は古くから認識されながら、特に慢性疾患における科学的な解析は、遅れてきたように思われる。一方、手術前後の栄養管理は、比較的短期でその *out come* が得られることもあり、活発に検討されてきた。本特集では、主に慢性疾患や病的状態における栄養管理

の最近の研究の進歩を6人の先生方に、解説していただいた。まず疾患を発症するリスクが高く、その予防に栄養管理が重要である、高齢者と肥満者における栄養管理について、ご執筆いただいた。続いて、日常遭遇することが多く、栄養管理の重要性が高い肝疾患と腎疾患における現状とその進歩を、専門の先生方に解説をお願いした。最後に、栄養管理における最近のトピックスとして、低炭水化物食とやや専門的であるが、カーボカントを利用した血糖管理の実際を紹介していただいた。臨床医にとって、わかりやすい、一般的な知識の習得にふさわしい、特集になっていると思われる。先生方のお役に立てていただければ、幸いである。